

龍安寺の石庭にみる庭景觀の美意識に関する“なんちゃって”考察

京都市の右京区龍安寺御陵ノ下町 13 に世界に誇れる日本の庭園があるのはご存じだろうか？ その名を龍安寺といい、世界遺産でもある。龍安寺が世界で有名となった理由は、そこにある石庭にあり、日本庭園の様式である枯山水（水のない庭。石や砂などで山水の風景を表現する庭園様式）¹⁾を最も表現しているからである。そのため、京都への海外旅行者が訪れる場所の上位にも常にランクインされている²⁾。



図1 龍安寺の石庭の一部

図1は龍安寺の石庭の一部である。石庭における各石の具体的な配置図は図2のようになる³⁾。なお、石庭の大きさは、縦が10m、



図2 石庭の配置図

横が25mの長方形であり、石の数は、図2の左から右の石の群に向かってそれぞれ第1群～第5群とすると、第1群は5個、第2群は2個、第3群は3個、第4群は2個、第5群は3個である。ここで、まず石の数（群も）に注目してみる。2、3、5という数はまさにフィボナッチ数列に現れる数⁴⁾であり、自然の理にかなった数といえる。すなわち、龍安

寺の石の数は、自然界に法則性を見出した石庭の作庭者（不明）⁵⁾が、それを意図して決定したのかもしれない。また、このフィボナッチ数列は黄金比（美しく感じる比率）と関係が深く、フィボナッチ数列の隣り合う2項の比は黄金比（1:1.618...）に収束する。そこで、今度は石の配列を黄金比から探ってみる。

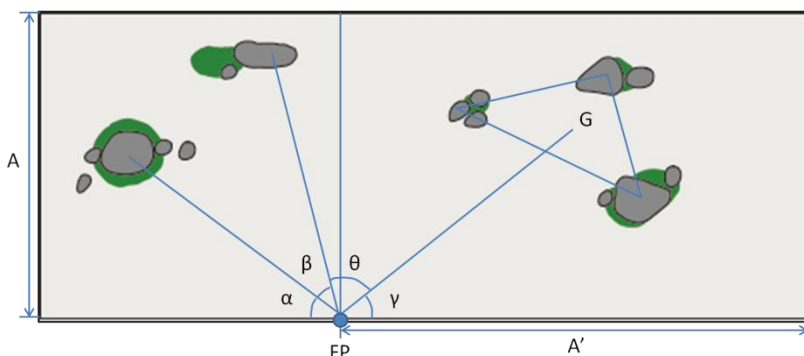


図3 石庭の黄金比による解析

図3から各ポイントとなる個所について計算すると、まず縦Aからフォーカルポイント（FP）を探ると、 $A' = 1.618 \times A$ となる点がFPとして成り立つ。この位置は、回廊となる広縁からみても、景觀のよい点である。この点から各石をみると、第1群と第2群は最大の石までの角度がそれぞれ α 、 β として、第3～5群の石の重心をGとすると、それと広縁の水平とのなす角を γ であったならば、 $\alpha = \beta = \gamma$ となり、さらに第2群とGとのなす角 θ は、 $\theta = (\alpha + \beta + \gamma) / 1.618$ として成り立つ。

以上から、①「FPの縦横の黄金比」、②「FPからの角度の黄金比」の2点が龍安寺の景觀を美しく感じさせている原因かもしれない。したがって、花壇の花苗の配置においても、この理論を応用すると、美しいと感じる景觀のある花壇が成り立つことが分かった。

1) 枯山水: <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9E%AF%E5%B1%B1%E6%B0%B4>. (閲覧 2014.10.31).

2) 京都市外国人観光客動向・意識調査報告書: <http://kanko.city.kyoto.lg.jp/chosa/image/houkokusho.pdf>. (閲覧 2014.10.31).

3) 大雲山 龍安寺 其の2: <http://bubuchademo.blog.fc2.com/blog-entry-27.html>. (閲覧 2014.10.31).

4) ジョセフ ダグニーズ、ジョン オブライエン: フィボナッチー自然の中にかくれた数を見つけた人、さえら書房、2010.

5) 龍安寺: <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%BE%8D%E5%AE%89%E5%AF%BA>. (閲覧 2014.10.31).

植
い
き
新
聞



植物いききサークル

第26号

発行者: 犬丸、加藤